

丹波中学校だより

清流の辺

せい りゅう ほとり

平成27年6月11日

(木)

文責 丹波中学校長 梶原勝由

全校登山

笠取山へ

5月29日(金)、全校登山を実施しました。この全校登山のために「鍛錬」と称した練習を近隣のコースで3回行いました。

27日(水)の結団式では、それぞれの想いを語っていました。(ホームページ参照)

曇空の中、7時50分に作場平出発。一休坂分岐を経て、9時40分に笠取小屋到着。その後、笠取山山頂を征服し、下山、15時40分に学校到着。

登山途中で雨の心配もありましたが、分水嶺や笠取山山頂では、富士山や南アルプスがかすかに見え、絶景を楽しみました。

全員が無事制覇できたことで、精神力や体力を鍛えられ、集団行動の中での責任感を養うことができたと思います。また、生徒たちには達成感だけでなく、将来、丹波山村の子どもたちに「地域の山」のすばらしさや恩恵、危険からの回避方法などを伝えて欲しいです。



朝読書の風景

前々回でもお知らせしましたが、読書をする生徒は学力の定着率が高いとデータがあります。本校では、読書の定着と心耕(一日の始めを心を落ち着かせ過ごす)のために、毎朝10分間朝読書を行っています。また、毎週火曜日は山梨日日新聞の「子どもウィーク」を読んでいます。

ここで、今、生徒たちが読んでいる本(6月5日現在)を紹介するとともに、校長が読んだ本のあらすじを紹介をします。家族で読んでみてはいかがでしょうか?

近藤友香さん	「IQ探偵ム」	高木 倫くん	「呪いと魔術のなぞ」
嶋崎龍弥くん	「オウマガドキ学園」	廣瀬 賢くん	「ようこそわが家へ」
船木俊成くん	「MAJOR ジャー」	岡部晃也くん	「夜中に犬に起こった奇妙な事件」
染矢夏実さん	絵の(いちごのかき氷)の発表		

<神様のカルテ>の紹介(あらすじ)

いちと

主人公の栗原一止は、信州松本にある本庄病院に勤務する5年目の内科医である。夏目漱石を敬愛しており、漱石の『草枕』を愛読し全文を暗誦できるせいか、話し方が古風で、周りからは変人と思われる。彼が勤務している病院は、地域医療の一端を担うそれなりに規模の大きい病院。24時間365日などという看板を出しているせいで、3日寝ないことも日常茶飯事。自分が専門でない範囲の診療まで行うのも普通。そんな病院に勤める一止には最近、大学病院の医局から熱心な誘いがある。医局行きを勧める腐れ縁の友人・砂山次郎。自分も先端医療に興味がないわけではない。医局に行くか行かないかで一止の心は大きく揺れる。

そんな中、兼ねてから入院していた安曇さんという癌患者がいた。優しいおばあちゃんという感じで、看護師たちには人気者だが、彼女は「手遅れ」の患者だった。「手遅れ」の患者を拒否する大学病院。「手遅れ」であったとしても患者と向き合う地方病院。彼女の思いがけない贈り物により、一止は答えを出す。

男子団体、県総体出場逃す

6月10日(水)、大月市民総合会館に於いて支部総体卓球の部が行われました。2年生中心の男子団体は、上野原中学校に競り負け、惜しくも県総体出場を逃しましたが、練習の成果を発揮し成長しました。結果は以下の通りです。

- <男子団体> 丹波中 0-5 上野原西中
- 丹波中 2-3 上野原中
- <男子個人> 1・2回戦敗退
- <女子個人> リーグ戦敗退

